

テクニカルワーキンググループミーティング 議事メモ (東京都作成)

○日 時：令和元年10月31日(木) 10時45分から12時45分まで

○出席者

東京都：多羅尾 光睦 - 副知事

潮田 勉 - オリンピック・パラリンピック準備局長

IOC：クリストフ・デュビ - オリンピックエグゼクティブディレクター

ピエール・デュクレ - オリンピックアソシエイトディレクター

ギャビン・マカルパイン - 東京2020大会 ゲームズ・デリバリー責任者

セバスティアン・ラシネ - IOC 医療科学委員会 東京2020大会 悪天候
の影響に係るエキスパートワーキンググループ
委員長

組織委員会：武藤 敏郎 - 事務総長

佐藤 広 - 副事務総長

山本 隆 - 副事務総長

中村 英正 - ゲームズ・デリバリー・オフィサー

内閣官房：藤原 章夫 - 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会
推進本部事務局 総括調整統括官

吉田 英一郎 - 東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会
推進本部事務局 参事官

※東京都医師会 (アドバイザー)：尾崎 治夫 - 会長

【東京都の意見の説明】

(東京都)

資料に沿って説明

(東京都医師会)

東京と札幌を比べた場合、データからも札幌の方が熱中症の危険は少ないと思う。しかし、東京タワーや浅草など、様々な東京の名所を周るコースも、前から練られたものであるし、救急、災害、テロが起こった時にどういった対策を練ったら良いのか、3年前から取り組んできているところである。

札幌で準備体制がしっかり整うのであれば、医療関係者として、札幌開催に反対はしないが、これらが札幌で間に合う保証があるのか心配している。もし、準備が整わない可能性が高いのであれば、東京都での開催に全力を尽くすべきだと考えている。

マラソンの開始時間については、5時開催であれば8時までに終わるので、WBGTは28℃以上にはならないというデータが出ている。

競歩については、現コースは全く日陰が無い1kmのコースを行ったり来たりするので、危険である。東京都の中でのコースの変更、あるいは、天幕等で日除

けを作ることで WBGT が 2°C 下がるので、根本的な見直しが必要である。

【議論】

○これまでの経緯・東京開催を望む都民の声について

(IOC)

我々としても、我々の決定に対して、都民が大変落胆し、札幌に大会を移転することの必要性に対して納得していないことは理解している。しかし、このように決定された。我々はまた、東京の人々が全体像を把握できるように、この決定に至った状況に関して、より情報提供を進めていかなければならないということも感じている。我々の思いは、「最高の環境をアスリートに提供したい」という、その一点に尽きる。もっと協議の形式を取っていたならば包括的にできていたかもしれないが、時間の余裕がなかった。IOC 理事会による発表の前に相談もしたので、一方的な決定であったとも思っていない。

○暑さ対策について

(IOC)

昨日、小池知事は、私の名前を出して、「私が 1 月に評価した」と言った。確かに、ここまで説明を受けてきた暑さ対策は、大部分が徹底されており、実用的だ。暑さ対策については、3つの焦点がある。

まず1点目として、アイスバス、ミスト、散水、雪のスプレー等の、暑さ対策についてである。今年の夏に実施された暑さ対策のテストは、多くの対策が有効であることを示しているが、中には効果が限定的なものもあった。これらの対策は、会場ごと、競技ごとに、そして、アスリートにとって必要なものを最も理解している IF、NOC からのアドバイスをもって検討を続けていく必要がある。

2点目は、競技スケジュールの前倒しについてである。ラグビーやマウンテンバイクなどが挙げられるが、今もトライアスロンやマラソンスイミングについては議論している。選手やチームの調整はもちろん、観客やワークフォースの輸送も含め、競技時間の変更には、多くの要素において、注意深い検討が必要である。

3点目は休息についてである。例えば、サッカーやホッケーのように、IF のルール上、水分補給や冷却のための休息が認められれば、アスリートが休息を取り、水分を補給できる。

暑さ対策という点で、主催者である皆さんが、総体的に正しい行いをしているというその当時の私の発言に変わりはない。

テストイベントは、学習し、修正するため、どこが問題か特定し、改善を促すために実施された。我々が、マラソンについて、暑さと湿度のコンディションを比較できる視点を持った初めての機会がドーハだった。ドーハは、東京で開催した場合にどうなるかを判断する基準点になる。

(東京都)

3点質問したい。

1点目、アスリートファーストというのは当然だと思うが、なぜアスリートの

意見を聞いていないのか。

2点目は、ドーハと夏のテスト大会がひとつのポイントだったとのことだが、なぜ、そういった話を事前に言っただけでなかったのか。

3点目は、質問というよりも意見だが、時間の余裕が無いから開催都市に説明しなかったというのはいかがなものか。

(IOC)

1点目、2点目の質問についてであるが、基準点としてのドーハの妥当性について、我々は組織委員会とともに議論してきた。我々は、視察するためのチームを、ドーハに派遣している。アスリートの意見については、国際陸連と議論し、ドーハにおけるたくさんのアスリートからのフィードバックに耳を傾けてきた。IOC理事会で行われた議論では、あまねくアスリートを代表する場であるアスリートコミッションの視点も含まれている。

3点目のご意見については、私は何もコメントしない。あなたの考えを尊重する。

(東京都)

私の方から Understand とか Agree とは言えない。

○会場変更について

(IOC)

法律的な観点からは、オリンピック憲章や開催都市契約の様々な条項が、IOCによる最終決定についての根拠となる。それにもかかわらず、今回の決定に至るまでの時間枠が普通でなかったことは、我々も承知している。我々は、決定を押し付けるのではなく、ともに行動し、ベストな妥協点を模索してきたことを強調したい。IOCによる提案事項は、主催者のためのものだ。例えば、アジェンダ2020の採択後、会場移転により、東京都や組織委員会にとって20億ドル以上の節約に繋がった。開催都市契約35条以外にも、IOCの役割や意思決定に関する記載がある。開催都市契約前文にもIOCが最終的な権利を持つことが書かれている。IOC憲章2.9にも書かれている。アスリートの健康に関することはIOCが最終決定権を持つ。極めて異例だったということはわかるが、アスリートの健康を守るための手段ということになると、IOC理事会が最終的な発言権を持つ。

(東京都)

今のオリンピック憲章の話だが、61条の、包括的な話として、IOCの決定は最終的なものである、という内容を指しているという理解で良いか。

(IOC)

61条の他、私が引用した2.10条（オリンピック憲章2013年版では、2.9条）や一般論として19.3条にも及ぶ内容である。確かに、IOC理事会において、大会における最終的な決定が為されるというのは、61条（オリンピック憲章2013

年版では、58条) で読み取れるものかと思う。

○財政負担について

(IOC)

「財政負担」であるが、コストの分析については、当事者が検討しなくてはならない。

(組織委員会)

コストの見込みについては、合意された見通しはないという認識である。明日の四者協議の結論を待って、それから必要があれば、地元にお話をする。経費の問題で重要なことは「都は負担できない」ということかと思うが、これについては、かなり高いレベルで決めていかなければならない。

(東京都)

まだ我々は東京開催を諦めたわけではない。ただ、仮に移転になった場合でも、都としては、経費を負担するという考えはない。今日の段階で結論を出して欲しいわけではないが、可能性について検討してほしい。

○マラソンの東京開催の可能性・競歩の東京開催の可能性について

(IOC)

札幌は既に2020大会のサッカー会場の一つであるし、2017年アジア冬季大会を開催した実績もある。札幌には、マラソン・競歩を開催する能力がある。

(IOC)

ドーハは中東で初めて世界陸上を行った。こういう気候でやるとどうなるのかのいいサンプルである。

東京は、過去にもオリンピックを開催しているが、1964年は10月開催だった。8月とは状況が異なる。2020年大会はオリンピックの歴史上、最も暑い大会となるだろう。アスリートの健康と安全を第一に考えるべきだ。様々な対策が講じられてきたとしても、それで十分ということではない。

世界のアスリートは東京の環境を分かっておらず、正しい準備をしない可能性が大いにある。我々の義務は、最悪に備え、最善を尽くすことだ。

スライド2,3に気温、WBGTの記載があるが、これは過去5年間の平均である。2018年、19年も気温が高かった。来年もどうなるのかわからない。

東京と札幌はWBGTで4℃違い、選手から見ると大きな影響がある。

(東京都)

東京はドーハとWBGTと似ているとおっしゃるが、我々の試算数値だと、ここまで高くないのではないかと思う。

IOCの資料では、2019年のWBGTは28-32、2017年及び2018年では27-31という数値が出ている。これは大会期間中の平均のWBGTと聞いているが、こ

れは 24 時間の平均なのか。それとも実際に走る時間帯の平均なのか。

(IOC)

追加の情報を提供すると、日本の学識経験者がマラソンコースを 1km ごとに区切って WBGT を測定している。それによると、6 時開催でも WBGT は 28-31 度のレッドゾーン、いくつかはブラックゾーンである。コースの一部はドーハよりもさらに高くなる。

(東京都)

IOC が根拠にしているのは、日本の学識経験者の数字ということか。

IOC は日本の学識経験者の数字だけで分析しているのか、それとも独自の分析をしているのか。独自の分析があるなら、実際のデータをお互いにぶつけてみることで、どの数字が本当に危険なのかという理解が進むのでは。

(IOC)

東京都のデータと同一かはわからないが。組織委員会が IOC へ提供しているデータがある。しかし、アスリートだけではなく、全ての参加者にとって、東京開催がいに困難であるのか懸念しており、選手の健康面でのリスクが減るように、東京と札幌を比較し、その結果、札幌への移転を決定している。平均を論じるべきではない。東京と札幌を比較すると、どの時間帯も札幌の方が涼しい。

(東京都)

東京と札幌で評価をすればおっしゃるとおりだと思う。一方で、今後の国際的なマラソンの開催については、2019 年の非常に高いデータがあったという点で、失格だと言われているようなものだ。パリやロサンゼルスでも同じような熱波の状況があった。そういった会場については、開催都市であってももはやマラソンを開催できないということになるが、そういう理解で良いのか。

(IOC)

気象環境の変化は劇的である。そうした状況を踏まえ、2014 年に条件を変更し、必要な時に柔軟に会場を変更できるようにした。いくつかの競技がもはや開催国では開催できない場合がある。東京が失格になるわけではない。もしロスで同じことが起きるならば、会場の変更もありうる。

(IOC)

パリやロスで熱波があったのは事実。世界中でも気温は上昇している。2020 大会が当日良い天気になることを願っているが、毎年、熱中症で亡くなる人がいる。熱中症は、心停止に次ぐアスリートの死因第 2 位である。

(東京都医師会)

日本の学識経験者とは常に情報交換しながら、一緒に協力してきた。札幌の案が

出ていないときから、東京の場合、熱中症の可能性が高いので、その学識経験者の研究でも、5時に始めれば8時までに終わり、レッドゾーンには入らないと主張しており、東京都医師会としても5時開催を主張してきた。5時開始が早いというIOCの意見もあるが、日の出は4時45分頃であり、暗いという指摘には当たらない。また、観客がいないのではないかと言うIOCの指摘もあったが、東京は、大晦日等は夜間も鉄道が運行するので、かなりの数の観客が絶対に来ると思う。IOCは「最善のものを求める」とおっしゃっていたが、最善を求めるのであれば、札幌開催でも早い時間の開催が必要だと思うが、その点はいかがか。

(IOC)

札幌についてはその通りだ。ヒートストレスを極小化するための移転である。

(東京都)

WBGT が最も基幹的な基準として使われていることは今の話から明らかになった。

WBGT は、気温や湿度に大きな影響を受けると思うが、東京の地域の気温や湿度に対する対策として、遮熱性舗装などを行ってきたが、それ以上に温度や湿度を下げる方法があるのか、ドクターの見地から教えていただきたい。

(IOC)

室内の場合はエアコンをつけることだが、屋外競技はそうはできないだろう。

WBGT には日射も関係している。都市の平均的な状況でなく、コース上の状況を見る必要がある。

(東京都)

暑さというリスクに対しては、相対的に札幌が優れていることは理解している。

一方で、自然的条件だけでなく、社会的条件も必要であると思う。それがアスリートのパフォーマンスに影響することもあるだろう。

東京における暑さ対策として、5時スタート、競歩については日陰の多いコースに変えていく、こういうことについて、東京都医師会から医学的な根拠で5時というお話もしていただいた。もう一度開催を検討いただくチャンスは与えられないのか。

(IOC)

最初に3時スタートの提案があった。東京都医師会も5時以前が理想的と主張している。しかし、理想的な条件ではない。どの時間帯でも条件は札幌の方が良い。リスクを最小化し、アスリートの健康を守るため、札幌に移すことを決めた。

(東京都)

1点誤解があるので訂正したい。これまで、3時スタートの提案をしたことはない。

5 時以前というのは今回お話ししているが、3 時の提案をしたことはないと思うので、一度ご確認いただきたい。

(IOC)

メディアに出ていたのが公式だと思っていた。訂正していただき感謝する。

○その他

(組織委員会)

今日のところはこれでよろしいか。7 項目の東京都からの問題点については、IOC から回答いただいた。

都として、そのまま了解という部分もあるかもしれないが、そうでない部分もあるだろうと推察する。

テクニカル WG としては最終結論を出すわけでないが、明日のポリティカルの WG (=四者協議) に対してどうフィードバックをすれば良いか、そのあたりについてご意見いただきたい。

(東京都)

時間については、例えば、ホノルルでは午前 5 時からマラソンが開催されている。

我々は、選手のことを考えるのは重要だと思うが、札幌が相対的に良いのはともかく、なぜそこだけが比較対象になるのか、理解が深められない。IOC の最終的な権限というものがある一方で、権限の濫用になってはいけないというのは思う。

(IOC)

ホノルルでは、条件が理想的ではないから 5 時にしている。7~8 月の 5 時スタートは普通やらない。

都民がこの状況に動揺しているのは理解している。しかし、IOC は管理者としての責任を負っている。あらゆる競技について詳細を詰めて満足なものとしなければならない。アスリートの健康を考えて、東京より安全なところを検討しなければならない。更なる時間前倒しも理解はするが、正しい選択肢ではない。この件は国際メディアでも議論されている。

(東京都)

ここは結論を出す場ではないので、これはそのまま互いに話を上に持っていくものだと思う。スタート時間の繰り上げや日陰を作るなど、更なる暑さ対策についてのお願い、これは持ち越しているものだと理解している。

東京都としては東京開催の希望は変わらないが、もし札幌開催となった場合、最終的に整理すべき重大な問題が残る。1 つが財政問題、もう 1 つがこの会場変更が他種目に及ばないこと。決定プロセスの問題もあるが、物理的にも時間的にも準備に大混乱を来す。

また、都民、特に汗を流しているコースの地元自治体への説明をどうしていくのか、これはIOCと東京都で考えていく問題である。札幌開催になった場合、重大な問題として残る。以上が、東京都としての現時点での認識である。

先に伺うべきだったが、札幌以外の場所は検討の候補に上ったのか伺いたい。

(IOC)

日本全国で見ると、札幌はオリンピックをやる準備が整っている。そして、マラソンを7～8月に開催している経験もある。東京都から権限の濫用という発言があったが、我々は、チームワークの精神を体現するのが重要であり、それはお互いの主張を理解するところから始まると信じている。

(組織委員会)

東京都が言ったことは重要だと思う。他種目に及ばないこと。そして、もし札幌に移転した場合の財政問題。(先程、東京都が説明した)新たなコストと、今まで都がかけてきたコストの二つがあるが、少なくとも札幌に移転するときの新たなコストを東京が負担することはないということ、誰が決めるということではないが、そういうことを前提に、明日のポリティカルミーティングに臨みたい。

それからIOCも、一般的な意味での責任、どういう対応が可能かということについては、先ほどの不信感であるとか、IOCも、都の気持ちを理解するというのも、この会談を通じて申し上げたと思う。私はそう理解している。

あと、経緯、法的権限の問題、時間繰り上げ・日陰など新たな暑さ対策の提案について、どのように考えるか。

東京都も、暑さという点からいうと札幌もわかる、しかし、東京でなお模索したいという意味だと。

IOCとして、会場変更が他種目に及ばないというのはどう考えているか。

(IOC)

IOCはリーダーとして全てのことに備える責任がある。素晴らしい準備がなされてきており、今の時点でできることは全て洗い出した。

しかし、コンティンジェンシープランで様々なことを想定しなければならない。これは東京大会だけでなく、どの大会でも同様である。大会時において、リスクのある競技については柔軟に対応できるようにしておく必要がある。

(組織委員会)

他の競技の会場変更について、明日のポリティカルの会議でどうお応えするかは、明日の朝、組織委員会とIOCで協議した上で、お答えしたい。

(東京都医師会)

最後に繰り返しになるが、暑さで考えると、札幌がアスリートファーストであることは認めるが、災害、救急など今までの蓄積を総合的に考えると、選手の安心感という意味で、東京開催こそがアスリートファーストになると思う。3年位

前から、東京は暑いので、医療界としては徹底的に対策が必要なこと、熱中症が危険だということは何回も訴えてきた。

これから札幌で、来年の7月までの短期間の中でどこまでできるかという点においては、我々でも不十分な点があるぐらいなので、なかなか難しいのではないかと。熱中症や暑さへの対策を考えながら、東京での開催を望む。

(IOC)

短い準備期間で、札幌でマラソンを開催するリスクは理解している。しかし、既に、伊豆などの複数の都市が準備をしており、良い仕事をしてくれている。札幌も良い仕事をしてくれるだろう。率直に、ドーハのアスリートの状況を見て、どう思った？ストレッチャーで運ばれる選手を見て、申し訳ない気持ちになった。オリンピックをそのようなものにはしたくない。現状を直視すべきである。それぞれの競技に関してはソリューションがあるのだが、マラソン・競歩についての解決策はない。課題があることは理解しているが、正しい選択をしなければならぬ。東京マラソンの主催者が、毎年2月や3月に開催するように。

(組織委員会)

言いたいことは尽きたと思う。お互いの立場を理解しながらも、以前としてだからこうしようということは至っていない。この場はこれとして、今後ポリティカルに向けてどうフィードバックするか、どういう意見交換があつて、納得したもの、納得できないものを整理し、明日のポリティカルミーティングに臨みたい。それでよいか。

(IOC)

結構である。

(組織委員会)

これで終了とする。大変真摯に対応いただき、お互いの理解が深まったのは間違いない。皆様のご協力に感謝する。

以上